



2022年度 第45回わんぱく相撲葛飾区大会

新型コロナウイルス
感染症対策について



はじめに

わんぱく相撲葛飾区大会実行委員会は、事業・イベント等の主催者（以下、「主催者」という。）として、事前打ち合わせやリハーサル等の準備過程（以下、「準備過程」という。）も含め、事業・イベント等の参加者（運営等に携わらない当日参加する個人をいう。）及び関係者（主催者以外で運営に携わる個人・団体・組織をいう。以下同じ。）への新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、最大限の対策を講じなければなりません。

基本的な考え方

新型コロナウイルス対策は、感染源対策（感染している可能性の高い人を祭りやイベント等に参加させない）と感染経路対策が重要である。以下の要素から構成される。

- 【感染源対策】 ○参加者対策（注意喚起、体調チェックなど）
- 【感染経路対策】 ○消毒
- 三密対策
 - ✓ 適切な換気（密閉対策）
 - ✓ 社会的距離（密集対策：原則 2m、最低 1m、人数制限も検討）
 - ✓ マスク等の着用（密接対策）



イベント開催時の必要な感染防止策①

(1) 徹底した感染防止等 (収容率50%を超える催物を開催するための前提)

①	適切なマスク着用 徹底	・マスク着用状況を確認し、個別に注意等を行い、マスクの常時着用を求める * マスクを持参していない者がいた場合は主催者側で配布・販売を行い、マスク100%を担保。
②	大声を出さないこと の担保	・大声を出す者がいた場合、個別に注意等を行う * 隣席の者との日常会話程度は可 (マスクの着用が前提) * 演者が歌唱等を行う場合、舞台から観客まで一定の距離を確保 (最低2m)

(2) 基本的な感染防止等

③	①～②の奨励	・①～②は、イベントの性質に応じて可能な限り実行 (ガイドラインで定める) * マスク着用状況が確認でき、着用していない場合は個別に注意等を行うこと * 大声を出す者がいた場合等、個別に注意等を行うこと (例: スポーツイベント等ではラッパ等の鳴り物を禁止すること等) * 大音量のBGMは大声での会話を誘発する可能性があるため、BGMの音量を上げすぎないように留意する
④	手洗の徹底	・こまめな手洗の徹底を促す
⑤	消毒	・主催者側による施設内 (出入口、トイレ、ウイルスが付着した可能性のある場所等) のこまめな消毒、消毒液の設置及び手指消毒を促すこと
⑥	換気	・法令を遵守した空調設備の設置による常時換気又はこまめな換気 (1時間に2回以上、1回に5分以上。または室温が下がらない範囲での常時窓開け) ・乾燥する場面では湿度40%以上を目安に加湿することを勧奨
⑦	密集の回避	・入退場時の密集回避 (時間差入退場等)、待合場所等の密集回避 * 必要に応じ、人員の配置、導線の確保等の体制を構築するとともに、入場口・トイレ・売店等の密集が回避できない場合はそのキャパシティに応じ、収容人数を制限
⑧	身体的距離の確保	・大声を伴う可能性のあるイベントでは隣席との身体的距離の確保。具体的には、同一の観客グループ間 (5名以内に限る。) では座席を空けず、グループ間は1席 (立席の場合1m) 空ける。 ・演者が発声する場合には、舞台から観客の間隔を2m確保 ・混雑時の身体的距離を確保した誘導、密にならない程度の間隔 (最低限人と人が触れ合わない程度の間隔)



イベント開催時の必要な感染防止策②

(2) 基本的な感染防止等 (続き)

⑨ 飲食の制限	<ul style="list-style-type: none">・ 飲食用に感染防止策を行ったエリア以外での飲食の制限・ 休憩時間中及びイベント前後の食事等による感染防止の徹底・ 過度な飲酒の自粛・ 食事は長時間マスクを外すことが想定され、隣席への飛沫感染のリスクを高めるため、収容率が50%を超える場合、飲食可能エリア以外(例:観客席等)は原則自粛。 (発声がないことを前提に、飲食時以外のマスク着用担保、会話が想定される場合の飲食禁止、十分な換気等、一定要件を満たす場合に限り、食事可。)
⑩ 参加者の制限	<ul style="list-style-type: none">・ 入場時の検温、入場を断った際の払い戻し措置 <p>*ただし、発熱者・有症状者の入場は断る等のルールをイベント開催前に明確に規定し、当該規定を十分周知している場合は払い戻し不要。</p>
⑪ 参加者の把握	<ul style="list-style-type: none">・ 座席指定、動線確保などの適切な行動管理・ 可能な限り事前予約制、あるいは入場時に連絡先の把握・ 接触確認アプリ(COCoA)のダウンロード推奨や各店舗における各地域通知サービスの登録・利用者のQRコード読取奨励(アプリのQRコードを入口に掲示すること等による具体的な促進措置の導入)
⑫ 演者の行動管理	<ul style="list-style-type: none">・ 有症状者は出演・練習を控える。体調が悪いときは医療機関等に適切に相談・ 演者・選手等と観客が催物前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じるとともに、接触が防止できないおそれがあるイベントについては開催を見合わせる・ 合唱等、声を発出する演者間での感染リスクへの対処
⑬ 催物前後の行動管理	<ul style="list-style-type: none">・ イベント前後の感染防止の注意喚起 <p>*可能な限り、予約システム、デジタル技術等の活用により交通機関・飲食店等の分散利用を促進</p>
⑭ ガイドライン遵守の旨の公表	<ul style="list-style-type: none">・ 主催者及び施設管理者が、業種別ガイドラインに従った取組を行う旨、HP等で公表

(3) イベント開催の共通の前提

⑮ 入退場やエリア内の行動管理	<ul style="list-style-type: none">・ 広域的なこと等により、入退場や区域内の行動管理ができないものは開催を慎重に検討 <p>*来場者の区画を限定、管理した花火大会などは可。具体的には、①身体的距離の確保、②密集の回避、③飲食制限、④大声禁止、⑤催物前後の行動管理、⑥連絡先の把握等を担保することが求められる。</p>
⑯ 地域の感染状況に応じた対応	<ul style="list-style-type: none">・ 大規模イベントは、事前に収容率制限等も含めて都道府県と相談・ 地域の感染状況の変化があった場合は柔軟に対応



新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン①

「競技会開催準備」

1) 会場選定

- ①密集対策として参加者（選手・役員）が、最低1mの間隔を保つことができる施設を選定する。
- ②応援者・観客については、最低1mの間隔を保てるよう入場を制限する。
- ③周囲の人と十分な間隔が保てるように、選手と引率者の人数制限を行う。

2) 大会要項等の作成

- ①本ガイドラインを基に会場の実態等に合わせた「留意事項」を作成し要項に明記する（別紙可）。
また、「留意事項」は、大会プログラムに掲載し徹底をはかる。
- ②「留意事項」を順守できない場合は、出場させない旨を明記する。
- ③企画委員会で競技時間の短縮に向けた検討を行い、感染リスクの低下をはかる。

3) 会場設営

- ①感染防止に関する注意事項を適切な場所に掲示し、周知を図る。
- ②入場者が密集にならないよう区域割を行い、人の流れが向き合わない導線を示す。
- ③適切な場所に、手洗い場所、アルコール消毒場所を設置する。
- ④複数の参加者が触れると考えられる場所（トイレや支度部屋を含む）の消毒、控室等の換気を定期的
に実施する計画を作成する。
- ⑤東西の土俵溜では選手・副審の距離を可能な限り保つ。

4) 大会開催の判断について

- ①開催地域の行政に確認・相談を行うこと。
- ②緊急事態宣言が発令されている場合は中止とすること。



新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン②

「健康確認」

- 1) 主催者は、参加者（選手・役員・監督・コーチ）に対し、当日の体温の他、競技会前2週間における以下の事項の有無について情報提出を求める。
 - ・平熱を超える発熱（37度5分以上）
 - ・咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状・だるさ（倦怠（けんたい）感）、息苦しさ（呼吸困難）
 - ・嗅覚や味覚の異常・体が重く感じる、疲れやすい等
 - ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- 2) 主催者は、参加者のうち当日の体温が平熱を超えるものや、1)の各事項について該当するものに対し参加の見合わせを求める。
- 3) 主催者は、応援者・観客に対しても、1)の各事項に該当する場合は、入場の見合わせを求める。



新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン③

「当日受付」

- 1) 窓口に手指消毒液及び検温機器を設置する。
- 2) 人と人が対面する場所には、アクリル板、透明ビニールカーテン等を設置する。
- 3) 受付スタッフは、マスク及びフェイスシールドを着用し、筆記用具は、個人専用のもを使用する。
- 4) 受付時の列に距離を保つための床シールを設置する。
- 5) 入場者に対し、マスクの着用を求める。
- 6) 待機列が発生する場所に距離を置いて並べるよう立ち位置を示し、誘導整理する。
- 7) 健康確認を行うものを別途配置し、「健康確認」1)の各事項について該当する体調不良者（発熱、咳、咽頭痛等）の入場を制限する。
- 8) 会場規模や参加人数により十分な間隔を確保できない場合は、時差をもって受付および入場の制限をすること。



新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン④

「参加者の行動」

- 1) 競技時以外は、マスクを着用し、こまめに手洗い(30秒以上)、手指消毒を行う。
また、真正面での会話は避ける。競技時のマスク着用は怪我につながる恐れがあるため原則不可。
(事前に参加同意書などで保護者確認項目として追記すること。)
- 2) 会場では、常に密集、密接、密閉を避けるように心掛ける。
- 3) タオル、うがい用の水(ペットボトル等を準備)は、自分専用のもを使用し、排水は定められた場所で行う。
- 4) 出場選手は、取組前後に消毒用アルコールティッシュ等で手指の他、顔面、胸、肩等を拭く。
- 5) 参加者同士の大声での声援、指示、指導は禁止とし、競技時以外は、決められた場所で周囲の者と十分な距離を保って観戦する。
- 6) 審判は、競技中もマスクを着用する。
- 7) 主審は、飛沫拡散を配慮し、通常より1歩程度後ろで動作を行う。
- 8) 主審の判定に異議・疑義が生じた場合、審判員は、マスク着用の上、隣の審判員と通常より若干の距離を取って協議を行う。
- 9) 競技会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に速やかに報告する。



新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン⑤

「監督・コーチ等の行動」

- 1) 競技に関する指導だけでなく「三密」を避ける行動、衛生保持についての指導も行う。
- 2) 作戦指導・指示等は、控えに入る前に済ませ、その後の大声での指導・指示・応援は行わない。
- 3) 真正面からの指導・指示は避ける。
- 4) 感染した場合に備えて、引率者を含む関係者全員の入場者記録および健康管理チェックシートを保管する。
(終了から4週間後に廃棄)

「応援者・親客・引率者の管理」

- 1) 体調不良者の入場は認めない。
- 2) マスクを着用していない者の入場は認めない。
- 3) 決められた場所で周囲の者と十分な距離を保つよう求める。
- 4) こまめに手洗い、手指消毒を行うよう求める
- 5) 大声での声援は禁止とし、会話を控えることを周知する。
- 6) 上記の事項について、順守できない者は退場を求める。



新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン⑥

「主催者の対応」

- 1) 主催者は、新型コロナ感染症対策の「会場責任者」を複数名指名し、大会会場内の「感染防止策」の徹底に努めさせる。
- 2) 「会場責任者」は、事前に立案された消毒、換気等の計画に基づいて本ガイドラインが定める留意事項が順守されているか、巡回・確認する。
- 3) 役員及び「会場責任者」は、感染予防に反する行為を見かけた場合は口頭注意し大会本部に報告する。是正されない場合は退場を命ずる。
- 4) 開会式、閉会式は原則行わず、開会宣言、閉会宣言のみを放送で行うことが望ましい。
- 5) 表彰式は、以下のとおり行うことが望ましい。
 - ・表彰者はマスクと白手袋を着用し、選手はマスクを着用する。
 - ・団体戦の表彰団体は、代表者1名が出席し、賞状・メダルのみを授与する。
- 6) 万が一、感染者が出た場合は速やかに各自治体や行政（保健所等）の指示に従い、感染者を誘導すること。



新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン⑦

「その他」

- 1) 飲食は指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離をとって対面を避けて、会話は控えめにすること。
- 2) トイレの使用については、会場の規則を遵守し、使用後は30秒以上の手洗いと自分専用のタオルで手を拭くこと。
- 3) ごみの廃棄については、各自で持ち帰ること。
- 4) 感染予防に必要な消毒液、消毒用アルコールティッシュ及び石鹸等はできる限り各自が確保する
- 5) 参加者等から収集した個人情報については、責任を持って管理し4週間後に廃棄する。
- 6) このガイドラインに定める以外の問題が生じた際は、わんぱく相撲葛飾区大会実行委員会で協議して決定する

新型コロナウイルス感染症対策張り紙

大会ご参加の皆様へお願い
～新型コロナウイルス感染拡大防止のご協力～

 競技以外の時間は
必ずマスクを着用しましょう

 こまめに手洗い
手指消毒をしましょう

 大きな声での会話は
控えましょう

 人との距離を確保しましょう

わんぱく相撲葛飾区大会実行委員会 

受付列用床シール

